

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

Johnson & Co

1522 C
Chennai

7

尾澤翁浦主人

存心集

孝西庵

9/29



昭和十三年九月二十九日
行四
木村貞一殿寄贈



家師孝西翁の翁を心して存心集なり
心を盡すは人の心と云ふは心なり
心は心なり心を盡すは心なり
心は心なり心を盡すは心なり
心は心なり心を盡すは心なり
心は心なり心を盡すは心なり
心は心なり心を盡すは心なり
心は心なり心を盡すは心なり
心は心なり心を盡すは心なり
心は心なり心を盡すは心なり

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

幸いなり身は暇なき事なれど加へて心は
あつたてはつたてはつたてはつたてはつた
たつたてはつたてはつたてはつたてはつた
たつたてはつたてはつたてはつたてはつた
たつたてはつたてはつたてはつたてはつた
たつたてはつたてはつたてはつたてはつた
たつたてはつたてはつたてはつたてはつた
たつたてはつたてはつたてはつたてはつた
たつたてはつたてはつたてはつたてはつた
たつたてはつたてはつたてはつたてはつた

物へ傳へたてはつたてはつたてはつた
あつたてはつたてはつたてはつたてはつた
あつたてはつたてはつたてはつたてはつた
あつたてはつたてはつたてはつたてはつた
あつたてはつたてはつたてはつたてはつた
あつたてはつたてはつたてはつたてはつた
あつたてはつたてはつたてはつたてはつた
あつたてはつたてはつたてはつたてはつた
あつたてはつたてはつたてはつたてはつた
あつたてはつたてはつたてはつたてはつた

武義國恩書

源大海

葎居集上卷

春之部

年内立春

冬をきて春をとりて年の肉をまめやらぬぞとて

冬をぬくら春ふちりぬるをわりの下をみせて梅咲ふたり

そとわりいんそりくとおのつら春のたし福いあまきとらん

元日

初春の人のつらひ今の世むじうけのちや神あよらん

岩屋戸の社世えて初春よりゆりのけの長鳴のち

春くれいのけりりらつまつらふわひつとちのんんけ

きのせふとるをさうかくおんひつとそそのんんおとすれなり

子日霞

初春の子の日の野辺のおよろしき生ひくめのこまことり

野子日

野辺ふ出て子の日をすれは若菜さく小松芽してふひるれは

賄弓

りやよと時をのり休の補弓れりり何より集よまらるを

摘若菜

大肉のやむと心をまきれのためふひくやりよの補弓

若菜多少

おひ出くる野辺の若菜つむんや春ふつれてや殺まさるん

春雪

とらふにつむわわのねすくねきハ平のたらなぬ小女ぬらん

霞

春ぬハ雪ふあつてやおのつらきものちりき風吹あへに

霞深

くつせよの人のふあつさ弓春のこまらふたねひうれり

霞添春色

くみよとていよふ似てやとねとまといハのハのらん

朝霞緑

春ととておのこころハ見えぬとまむれとあらまのめ

夜霞

朝日さいやぐもるに似れと色のこころそまあちりる

市中霞

月のこころ花とおほろにありやちりまやあたるりきぬしむ

連峯霞

たのつらうらうらうまのこころはくまのこころの市河ハ

海辺霞

はらあつてのすまぬ雪とあなれと遠きハ見えぬ春の山のそ

河霞

位々のきりのちらはたぬ日ハ松とあまて風を吹あへぬ

鶯

山河のまのめりしをたつぬれハ岸隈の水の烟ちりりるを

鶯覚春眠

つたをり植つる梅ハ鶯のきくもさうぬおそやけさるは

朝鶯

鶯のきくもおこせんハいつま傳のおいらてより春ぬのや

夕鶯

春くれハおのおこころをさうり鳴おこされてねいこそせぬ

野鶯

鶯よ如の初音私めりうしまりしたぬらす此辺の竹村

閑居鶯

花う先の梅の枝まて木つとひてお庭のほふ雪のふく

窓前鶯

ましくらぐ梅や添まひさくうの竹よみさくく雪のたえ

隣家鶯

隣まてきてし鳴ちまうらうふ梅あきとちをうとまれおん

行路鶯

又みらんあへ申くつてのあうとをとおよりぬ梅小雪のこえ

伊勢國朝熊山のありしをのこしりよ所めて鶯の鳴を聞て

玉くれのをうらみのやうりみくられとまひひねぬ雪のさる

梅

くよこはたぬるのまはすきこまうー雪うそのとらえ梅の花園

うくばきのまふひうれまて最後のおんひたさうぬ梅をこへ

世に鶯宿梅とりのを庭に植て

室梅

鶯の宿てよ梅を植はまてお庭ぬらすつりぬわてぬけ

梅風

今の世の人のうら室の梅うをうらうすきささいようれと

月前梅

梅さけハる雪の外ふ吹さる風さくをうきとちこそすれ

夜梅

雪の速ハ雪こそハ白く梅の花さハ月あはるようそまぬ

夜梅

梅うを添くく先ていさくうてぬる雪の神のんちこそすれ

夜梅遠薫

梅うハ雪の梅り雪よそそ目ふさるようハ雪ぬらうられ

水辺梅

梅の花つとよまつくのやうれはゆよさくふ雪ふ白あこ

行路梅

ぬすりの神さく白く梅の花はそふぬるふ雪さうこそすれ

難波小ありらるる山田大海うらうらう歌をせふたをせらるるせうせうの

けふうらのそ花咲まてハぬれとつちをええハぬと有らるる返ー

梅見よまのねりり。時ふ女への物の音あそひりるを
大うゝハねあそふ梅のさきこりけりめよりたゆく花のさゆえ

鳥驚惜梅枝

翫梅

折梅

梅有遅速

老梅

紅梅

柳

梅よりみ望よりみめてこきハありよ花のたゝのさくつを

望のきこてあゝ庭の梅の花おららうりきこ人ふあゝるべ

又ふゆんらつてききしめ。望ハ梅の友とや家をすららん

をさるにふくそとゆ。梅のふまはハねすくべ一枝をららん

うたのえゆしうねるのまゝふ梅でおくれさきたつを香。くらん

あーたて。を木の梅ふわうえさ。一咲く。花をえんあらうた

白きたふのをうを先つ。梅のつこのをえい海ふら花しをぬし

あゝねら信えうねぬきを花よりみやねさく。人のりらん

霞中柳

柳枝鶯

若草

松下若草

春野緑

春草

摘草

路春草

行路春草

風うらたねい。柳のえさよりや春の葉ハをぼるらん

梅らりい。めうらちやえらうのふたう。柳の望のりえ

若くは。はらふねやけあそねほゆ。うら花をちうら。柳あて

花のさく。てうら。花ゆ。うね。めりてうらん。春の若草

月ふう。とき。小ねま。うら。の。下。ま。ね。え。さ。ら。う。あ。い。れ。ぬ。さ。う。ね

きの。よ。さ。そ。古。ま。ま。り。ま。せ。し。ち。う。り。よ。い。ま。ま。野。う。ん。ら。と。ぬ。ふ。き

うら。若。き。秘。ろ。そ。よ。ら。ま。き。春。の。ま。を。ね。ハ。や。う。て。海。ん。す。ま。う。た。じ

春の望。ハ。小。女。ま。う。に。た。ま。む。れ。て。お。と。ね。つ。む。や。葉。は。え。ね。を

わら。さ。う。ら。れ。ハ。ね。ら。す。す。れ。ま。と。れ。ハ。ま。さ。く。春。の。む。ち。こ

春の望。の。望。の。み。う。う。に。感。如。ハ。あ。の。う。ゆ。ハ。人。の。色。路

野春草

乃多に心をいれて春の野ハちりちりゆるけ思らるあゆの
去るよせんものんあに春の野つきてハ捨る草のいろく
をんれと野ハおそしぬふりくをんかたてをてぬぬせん
たあ野ふもえて人ふつまこと又とあつて草ハもく
日のえわうんといくと敷うけハたふおかれて草をりえらる
おむれてたをるもらひんこうれハ焼く人ふえおされり
おろふ藤をみ申る小松原のいろとさら山おこやか人
柔ゆるく人よりさきふたつよひのふれとさ原山早蕨
春の赤ハ氷とみえり新れあつぬるこやすらん月のをちれ
ほのくく新ろそあち春のよた月のをえんやたらうのあて

乃多に心をいれて春の野ハちりちりゆるけ思らるあゆの
去るよせんものんあに春の野つきてハ捨る草のいろく
をんれと野ハおそしぬふりくをんかたてをてぬぬせん
たあ野ふもえて人ふつまこと又とあつて草ハもく

竹陰春草

樹陰早蕨

原早蕨

深山早蕨

春月

朧月

霞中月

春曙

故郷春曙

春雨

連日春雨

野春駒

山春駒

春駒多

さやうきを心とすたる月うらみ春のををハのうれさりりり
春くれハ霧のをふらをかして月の新さ人のくくつら
こすすれうけをぬれてせのたの藤そふぬる春のぬん
いひーらぬ春のあそれいふささのをりーれこそあぬあらわの
さたませー花と柳のわのををぬるハ春のぬろたあうた
春あふさひーくくらひきのふらよぬるさくうらた人ヤとをぬ
いさねよき野辺のさぬうぬけけるさあぬぬれさきとちよて
ねひつてくいつまふいつま申し野うひの駒よいうたのーき
野うひはとちぬちふららし春を浅馬くひんふ今ねよちり
ちぬのちハ新ふたうてのすりくのぬろそねく野うひ山あ

雉

蛇くやときんろえうし妻さひてかきさのきんねぬま

夕雉

おしあれ一村五のほろくとちかきさのくくれのみ

雲雀

あゆえんふのさうふちのひをうさつる時人のをい

雲雀思子

るんせそき雀のはきくむういはさるぬぬくこにけさ

野雲雀

まうつ春めひをうのさうまへ野辺のたひふをえぬらま

雲外雲雀

あこちのみ仙けちのきさのひをうさつるまをまて

伊勢の上野よ

えさうあつる雀のまはちりさの上野をときぬら

呼子鳥

さまはろそつさのちひぬまうそれいんうよこさるを

志麻子の國よて道よ日の暮くる折ふ此鳥の鳴るるを聞て

花

うほまにああ人の何ちうんぬまていあを思りむら

さあていんぬらひくら山さくらさけいさうつれ花ぬぬ

あてそそうこくぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

侍花

春や花さくほくふかうぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

山初花

春よきくこくぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

山花初開

まこさつぬ花を尋て山に一花初開ぬぬぬぬぬぬ

山花盛

はこらにきぬまぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

花盛

春さくうれうらうら山花のさうりばまていぬら

あつらひさうのゆふたうこのせぬ長保ぬぬぬぬぬ

所々花盛

ちらぬまを足跡さくちまうらぬ花のいつくぬ人のま

翫花
花さくらあめぬをうらうらう又たくれの花をそおのり
江戸みて飛鳥山の花見ふりて

行路花
まよ又て名は同一花を思あつまをこめの神さきこく
ゆくろぬきさるのゆめいひちうて花よりこむ春の山に

夜花
のけあめんこそゆけうをむのやうのあ梅月ふハえねと
花のうけ一人をてハわりりくちをすすあう月のあ梅

月前花
春の色をけうまの花とくらわれハ氣をほきあ守の月氣
ちうたそむ後うられふはそよ風のりきこめたやいらそと

春月比花
をうらぬちうらひもあぬ春風ふちうめめてとき山梅花
さくら梅のゆくりすの夕あうらさぬちうすすらん人の心

花嵐
おあふぬれもそきられぬ花ハああらいこ起てえん
あはらふぬの春いふきそくわつくちうて花はさくら

都花
暖つく大川の思のゆくらふあめらのゆくりきこのゆ
ふさくらを谷のうらたらあやうさめたれて程をうらこら

川辺花
ちをちの神のりのきふさく花めらうこまうハのれさうら
とまよきせふこまうらたはらぬせハ忘埒の花を神ハちうはし

谷花
ふさくらを谷のうらたらあやうさめたれて程をうらこら
ちをちの神のりのきふさく花めらうこまうハのれさうら

社頭花
とまよきせふこまうらたはらぬせハ忘埒の花を神ハちうはし
ふさくらを谷のうらたらあやうさめたれて程をうらこら

田家花
ふさくらを谷のうらたらあやうさめたれて程をうらこら
ちをちの神のりのきふさく花めらうこまうハのれさうら

杜花
とまよきせふこまうらたはらぬせハ忘埒の花を神ハちうはし
ふさくらを谷のうらたらあやうさめたれて程をうらこら

古寺花
とまよきせふこまうらたはらぬせハ忘埒の花を神ハちうはし
ふさくらを谷のうらたらあやうさめたれて程をうらこら

廊中花
とまよきせふこまうらたはらぬせハ忘埒の花を神ハちうはし
ふさくらを谷のうらたらあやうさめたれて程をうらこら

野遊競先

けしうの陣を野れせおあききと人よりさきお申しんわね

野春真

すもれ草を志まてほふたり野れおのびさこのほのきくさうく

桃

梅つと梅のおそき花のちふりりいさきさう春のいろとて

りこのふ梅と梅のいろいふらいろ色くさうさうさうさうさう

むぎの國騎西羽丹生ちこりまあいろをさめくさのほりら。時り

桃の花をうけてよめ。

梅ちうへし梅お梅をこきませて田舎へ春のさことちうらり

難波の桃谷よりよめ。

春の花のふきかたふらあきいろいふらいろのさきとさうさうさう

蕨

はさくら先かたさうさうさうおのちのさうさうさうさうさうさう

蕨菜

さちこりやよつそくらめ屋のみのさあつれさきおぼろせむ
人ともひらりおろくに住ちこりちたつた先のうみりら
はさくらふらと年と宿をとりれりお行かせんすを作らた先
梅さく吹いのあらははさくはさく先を花のさのみとせん

幽居牡丹

つれくさくさうさうの梅さう春の目おほくの花を先ひうね

莖

はさくれ草咲ててたれた先へ春のおとちうさき

路莖

布くつらわらいらふつとた先てさう何せんたのすうねん

田上莖

すきこりへ残う門田のすうれ草さうさうさうさうさうさう

菜花

山吹の花をほさきさうむうへし畑のねさうさうさうさう

蝶

歳たひめさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

蛙

鈴麻川よて蛙を

うたろちくまわねかけにきこゆれとたゆえちうて成をこちん

苗代蛙

ふりして蛙かくぬり鈴麻川よまをこまやらと蛙かくぬり
鈴麻川八十せの蛙八十のりと平くきらとあつぬまのりぬ
苗代のあひくこをいつのちふちうて蛙のきこひなる
苗代をうき程ふぬぬりぬり小田くうまうつまなくたうり
それそまのりのちのたぬつみのねとあるま苗代ひふりり
久方のゆふりのた程とちらゆふぬぬりぬり
何うとゆゆらひきとぬぬりぬり苗代のあまのちうら
ゆふらりぬりのほしの花むらうきこゆぬぬりぬり

路苗代

岡躑躅

志ほし山のはしぬ

山吹

庭山吹

垣山吹

水辺山吹

河山吹

山吹有逢速

杜若

志ほし山のはしぬ
わらうふ吹おふりちうちうき妹ふぬぬり山吹の花
まお宿の一まの花の山吹たひらうてハキまよそさけ
花えんと極まのきの山吹はうたてなまりゆひふらり
山吹ハあめのぬれをめぐられてあつちをさるその枝をえに
山吹の花さくぬのちうらた庭ふこつぬをこふくのそをぬ
山吹ハうわきと枝を岩への浪ふりまねていつふたふら
まよえその山吹一花や二ふつハとまのゆき
残りちの隣のまおののまらさる春とまのいそふそさく

藤

ちひすくふ庭の栞の若たさうふ何れらぬあはれ花を咲けり

庭藤

庭宇午のうふらをとむらさね年々若のさきまきさうら

池藤

川ゆいし柳の若あはれ花さけけけけけけけけけけけけけけけ

山松藤

新うえて花さく池のうらややと木まの若ふけけけけけけけけ

松上藤

山松の枝を傳ひて葉はまき谷るの若の若さうらね

樹上藤

まつ世ふうれうらえねつうけけけけけけけけけけけけけけ

挿藤花

うねちりく柳ゆいし花うらやとよ木あまこの若の若さ

競藤花

け紫の長さたけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ

春風

ぬるこゆく春の始ハ風ちれやさむき限りの氷ゆきとく

春閑

あうらの八重山栞ちらせくハ風を色さぬ閑さハちり

春沼

春されハ小埜の沼ふらう鴨のたぬのまきまハこさこさ

春田

種けけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ

春田夫

残ハ今ゆく福まくぬり杖の田をこけけけけけけけけけけ

春木

春されハ花々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

春植物

あうらみえぬえうらの花さきまきまの春ふいぬぬはま

春鳥

何ちうぬ庭のこちハ春のまきこころあちりぬふらうら

春狩人

け野辺ふれをくひらうらぬふらふむけけけけけけけけけ

老後逢春

年々くちをちかむを去らん
あきつねと去年ハあひひ
あきつねと去年ハあひひ
あきつねと去年ハあひひ
あきつねと去年ハあひひ
あきつねと去年ハあひひ
あきつねと去年ハあひひ
あきつねと去年ハあひひ
あきつねと去年ハあひひ
あきつねと去年ハあひひ

春旅

春祝

夏之部

首夏

首夏風

首夏新樹

新樹

竹の子のおつる根を尋つ
夏衣まことかみそりぬそち
花みのこおつる人のかを
木のつら春の葉を吹りち
夏の新木をたぐぬる旅
申すねまことちつる業
山妙のらんたきハ早苗
人の世を夏のはりきふ

さつちよのゝ若葉あしふらりて交本を花のよまきすといふんをうりに
 こゝろぬよりおひてそ人の目をさぐるゝ若葉あし神のこゝろけぬり
 けけいゝれれ若葉あし目をさくらて木のくれやゝのるあゆむし
 若葉あしこゝろけぬりて花のやん日やゝのわらあつてやんぬり
 郭ろきちやくひとそぬみたるまきあひの山の夕月のこけ
 きんあしこゝろけぬりて花のやん日やゝのわらあつてやんぬり
 嵐山の夏木立を

庭新樹
 庭新樹
 庭樹綠滋
 揺さ〜春ののちらんぬぬい出ん花をそかまれ山のおぬりけ
 ちきとねふ〜はえさ〜たをけいあひさ〜の夕日のこけとぬり
 よきとねふ〜はえさ〜たをけいあひさ〜の夕日のこけとぬり

新樹窓暗
 卵花
 窓くら〜ぬりて夕日をさくらて若葉あひの窓をぬりぬりぬり
 若〜いひ月とら〜と花うらきとぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

薄暮卵花
 夜卵花
 夕〜のあひぬりのこけに〜に卵のふいおあつぬりぬりぬりぬり
 た〜ぬりのこけに〜に卵のふいおあつぬりぬりぬりぬりぬり

曙卵花
 卵花似衣
 夕〜の月のちらうにちら〜と咲つて〜のほの卵のふ
 夕〜の月のちらうにちら〜と咲つて〜のほの卵のふ

卵花似袖
 卵花交夕顔
 夕〜のふをちてゆく〜のぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり
 夕〜のふをちてゆく〜のぬりぬりぬりぬりぬりぬりぬり

籬卯花

うねりく引申下りし卯のふの垣ハこころううらなを

雨中卯花

ぬふらのうけあひまみちあらう卯の花垣ふぬのみこぞ

山卯花

春さきてまよきやう志たのほハ卯のふ山をいこまうふ

山家卯花

山家卯のふさきハ冬さつるまふらうらへこころうら

名野卯花

たはくう城さうしてほすうとをのうに卯ふ暖る玉川のま

閏四月卯花

うつき暖月ふれはてたのつうら花さくうよむのこゆら

竹子

隙より垣をこえてハ咲きハはをう先たるそのの竹の子

さくちようゝ意の竹の子はふらうけらハ友ハのせうら先と
竹の子ハ垣のわのまはまらうほらうてきやうんらよのたまふ
わらまこふらよたよません竹の子ハ世にうつあひほらうら

垣笥

井の子をほらハ布らにんて粒とけゆる根をまうと先そ

里笥

いつのまふわらうむれふぬうれうすくぬぬる垣の竹のこ

岡笥

竹の子をほらふ出くる山さふらうをうらぬすまねかせん

新竹

其以と今年ハぬぬ山家うらつれもてくる山家の竹の子

新竹風

新竹の以をそそくにめてぬらうぬのわこきこ人のむうれ

窓新竹

とくにのひぬおぬあ年きハおちよりさきさそのの新竹

垣新竹

お竹ハたむきわく小風吹て友のうきさそ涼うらうら

待時鳥

お竹の生くる垣ハおすらぬ程そそ志をういよせうられ
おてハこそうゆくを先けさうそ言ハ秘あんほまこぬし

人傳時鳥

初時鳥

暁時鳥

曙時鳥

夕時鳥

夜時鳥

ちくれいきくめのこして昔よりはつりーの時鳥の那
 ほくきいりつれちーけははるすてまーとにや
 よんづてほらんとおりの友よのす初言をこーけさうた
 りつとみうらなめのを子親初言とらん人のあらまよ
 りさきけハ初言ちうらうまのこおひてまー山郭ら
 はういしてのり友をそはくばし今言はるう初言
 待言のまふりくはまさらぬははくれーけの山布きん
 写捨る束をわうらや捨をふやうしうさの山布きん
 まゝれてはんうーまくれぬすふ人聲さうんほくきさき
 友の束のこーうきさけふ世の人を待せぬおひの時さか

連夜時鳥

深夜時鳥

夜更し時鳥を聞て

待夜ハ初言をこみー附る今言をちくうまうらうら
 歳束よの待言いくの時さきわうぬとまへえやにわら
 さよゆくおひゆる小思よさなされておりのきし杜うら
 とぬ人を待よさきんハ時さるまよれきうーとりの一さ

時鳥數声

時鳥遍

山時鳥

旅宿時鳥

思ひ福の人を一つ免てせくらのときさうたてさる子親まけ
 一まのふらさうりて福よんとすれいあこほ郭公あけ
 布さきんきさうくとこれよりちんハひうやほほりん
 かみー人を尋ねておはほえぬるの住りの山ほくきん
 ちん枕あや旅ちうりほくきんりささううてのこらひて申け

鄙時鳥

時多初の初言しそくししちの長河を多ひくし

社頭時鳥

ほくそき舞くき山枚さく夜涼ふあふらんしん三輪の山枚

古寺時鳥

しりしけ古寺にきてきけハらふい初涼の山枚くきん

高野山の古岳法師の歌をふまねりるる時小函居時鳥

一あふたるふりたれいほくしんちらてやきさく山布きん

閑居時鳥

ゆえそし友とちはいよるハ里をたぢまきし山時鳥

山家時鳥

今日こそハ明るくしひてしん人の歳よと先たる山郭ら

えんはそ川杉の村立とりよあうらうて時鳥の鳴をきて

初まハいつこハあれと夏を儀ときくや神河の山ほくきん

名所時鳥

時多とそ山やたれらすちうまて初ふちうぬ初言城

旅宿橘

をすハ志まむむりのうた々のその枕ふこのをくしちそぬ

盧橘子久

檜にりふとそよおとそこのうの又花そそふをつきふりり

早苗

うくとそらちやうハおひぬ早苗そそあ日の中れゆきぬれ

杖うらて今年れこのみあの世の初棧あふあハ極たてふりり

符あくとたれハやうてさぬときりふしぬさき初う業うた

採早苗

わりろ成りさそを採とおひひう夕也ハあう急採りり

水齋早苗

極し田れふふいとうてくちぬしうちてたれぬ五月夏のあめ

早籾早苗

ぬえのうらうよほよ早苗時初れたまうたのこがらん

首蒲

たれはし何のあや先ハみえよとゆうのうくまぬをせむし

五月雨久

井れみうらう初れぬえぬうきうておとわあふる五月夏の初

連日五月雨

五月雨漸晴

河五月雨

梅雨

梅雨難晴

庭螢

叢螢

風前螢

五月雨のそれぬしつをけはりのこくはよりて歳日へあらん
 たる者みしひうそきよとみ月あふよとれしををうけおはる
 めりぬに晴てはなぬやう水のあつとさうりやまら構はせん
 山河の夏の里人さわりこのさきとれふ水や換らん
 くらんまうと梅あひにきこらうらわらぬのさるんを
 りしせきにぬれぬ社をきこらうともものうひとつみ月あふの者
 ありぬの日をてわれはまおさくぬれぬあふをさるんは
 五月やこあやをわわぬ夏のあふあふよ螢のつぎとよ
 葉はくまをさるんをさるんをさるんのさるんのさるんをさるん
 河まきの柳のうらを風うらをさるんをさるんをさるんをさるん

月前螢

水上螢

月下水鶏

深夜水鶏

夏月

夏月清光

月出涼風来

夏月涼

依月夏涼

月の東の螢はさるんをさるんをさるんをさるんをさるん
 流れり河のうきとふすうりていとぬ螢をさるんをさるん
 しつとちとせをさるんをさるんをさるんをさるんをさるん
 許る門をりやたくとみ鶺鴒あつとれぬさるんをさるんをさるん
 涼らふ月人をとこぼるんをさるんをさるんをさるんをさるん
 小女子あつとれぬのさるんをさるんをさるんをさるんをさるん
 夏のよのまをさるんをさるんをさるんをさるんをさるん
 夏のよのまをさるんをさるんをさるんをさるんをさるん
 月影ふとくわてとさるんをさるんをさるんをさるんをさるん
 夏はよのまをさるんをさるんをさるんをさるんをさるん

夏月易明

まろしとて浮む布とさく短敷ハ月の新よみ換らんふりり

暁夏月

文ぬふ小園ハ入ん交のぬみあらしき月ハ新を身みしむ

夏夜惜月

文ぬとハ妹ハいふとハ異さぬハ月を眺しりてハハ寝らる

深夜夏月

まろしとて浮むうし寝ふ文ぬらうたりぬのあふ月やうし

連夜見夏月

うし寝み交ハみしりき月うけを眺して寝やふりよりさき

夏の夜月の面白きに

あつて浮む河辺ふ新させハあふり流るる月ハ有らり

夏夜依月客来

さうよとハ月よしれぬしぬよとハ浮さうらた人のきうし

雨後夏月

五月雨のきちたはれとささのあしこしよられ交のぬの月

河辺夏月

涼しさの限らぬらん河風のぬの布出らる浪の上の月

夏草滋

夏草ハ雨ぬちふたふらうてゆくしぬあくおひのひふ危

野夏草

甲の子ありうりつるあしハ交のぬとさうくに草のこりき

草中夏花

ゆくしぬ交の草にし先ゆくをおされてぬひてふの寝らん

名所鶴河

雲の代の長らの川ハむうしよりこも人の指舟さすとほきけ

蓮

ゆるりとハ詩うりよこそりぬのたのまあぬおのぬふの草は

蓮露

うりよとるぬとくさふたぬりてハあぬらたらぬ玉の草は

夕顔

夕顔ハ花さくまきくたのつららちまたる垣のよそひとさあ

夕立

夕顔とよちまき名ハ人に似てふおのたぬおらぬのこりて
夕立の五宿りしてぬれをぬれぬとちハぬれぬりぬ

夕立雲

夕立の雲ハさあまゝ一ひらひらと吹く
 けしの日毎のくせよらふやまゝくちよめよまのたすまひんね
 夕立のきよふきはひいて吹すまむ風よりぬのきよふぬり
 かのみゆまきハ夕立のきよなる一もくつゆりもをうらむ
 袖をやしちるをきよとてたをきよのひかすよわすれぬ夕立
 夕立のぬほもきよまの市所をねまつていふまゝ一あゆむと
 つくさくのまききよとくよ夕立のきよのきよもくつゆりの市人
 あるねのきよのきよにきよのよまきよのきよさあまゝ一きよの
 夕立のきよとあまのきよにきよハんんたさくきよのねま
 ねろちやくをきよぬきよ夕立のきよよのきよをねまぬとぬらん

雷

夏まじほのねおちる夕立のねのひきききていさすけき
 夕立のぬらからぬハおねたぬふ耳をつらぬくねのきよぬ
 夕立ハぬぬぬれてぬおるねのたこまらたのゆれきりぬ
 ぬるねのきよとくほのねたさけれハこたちくくちてねのきよ
 本をけら一草をそとてぬひさく一うらねはきよのきよのきよ
 うられてハくふわやうんひきたさのきよのきよふ人まのきよ
 たりくぬらうてたこく音のきよはきよたの風ハぬゆきぬ
 いそげとくきよのねのすき一さふ川たせききこちきすれ
 あつきぬあつきぬさくちらぬらしきあひやぐもぬわくくぬ
 本下うけ一たてすきとくひぬらうぬくゆひ日さすけき

納涼

樹陰納涼

屋上電

行路電

電

落雷

行路雷

樹陰納涼

舟納涼
 隅田川のすくふ物一はるごときふ
 ひるまき人袖一たやうふ風そつとあぬりてよき新ふすめハ
 すむとて人のぬきえハあつとくみわよりあつき舟のうちくぬ

夜納涼
 燈方をうけほりて川つゆふおの音あつとくよあつめの涼一さ
 すむとて袖ひやうふぬふりりあつとくあつとくあつとくあつとく

自他納涼
 ちりぬとて風あつとくをれハ隣よみおめつとく散そのよとくあつとく
 らとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

閑居納涼
 けとちハあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく
 けとちハあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

晩夏
 けとちハあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく
 けとちハあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

夏夜
 古人の清のりのあつとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく
 古人の清のりのあつとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

夏朝風
 ひやとくあつとくの風つとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく
 ひやとくあつとくの風つとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

夏夜易明
 夏の夜ハあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく
 夏の夜ハあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

夜苦熱
 國のうちれ暑さよふたつとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく
 國のうちれ暑さよふたつとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

夏閑
 かつのよハあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく
 かつのよハあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

夏宿
 さむしとて冬ハあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく
 さむしとて冬ハあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

夏旅
 うまのちをぬきあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく
 うまのちをぬきあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

夏山家
 異つとくあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく
 異つとくあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

夏山路
 たうとれはつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく
 たうとれはつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

夏野路
 わひつとくあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく
 わひつとくあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

夏河
 けとちハあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく
 けとちハあつとくのたてとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとくあつとく

夏鳥

夏虫

夏獸

夏木

のりあ〜く鳴きあつ〜山うらす夏はす〜ちのをらうの松原
 玉あ〜ふ何をちきうつて夏虫のひあ〜に何〜うをい〜ん
 枯風はつちの庭より吹やらん世にあつら世に〜はらき〜の鳴
 煙のちあ〜よりらふ故を火の火のう〜さた夏のよえうた
 去さ〜る大海のうけふ身をうせて古ひらえ〜うをれ大まら
 又〜に〜あせよ馬の武士りのられてあ〜く夏やわい〜き
 花よち〜春の梢におそ〜うりき〜せ〜ハ早き夏木え〜り那

秋之部

立秋風

初秋

初秋朝露

初秋月

初秋風

人の身す〜く〜そぬみら〜あ〜く風ふ杖え〜りうり
 めら〜みにつれてやきぬ〜白あ〜と風〜杖のあり〜ちあて
 立〜り〜杖の〜る〜杖え〜せてけ〜お〜さ〜のよあ〜似ぬ
 楓樹のほ〜めていつ〜ころ〜月のを〜杖ふ〜りり
 き〜のよ〜はつ〜る風の音さ〜えて杖のり〜る〜い〜ぬぬれ
 人の身〜ふ〜て風の吹ぬ〜杖〜き〜く〜うり〜は〜は〜り
 涼〜さ〜ハ〜と〜ハ〜と〜と〜と〜き風の音よ〜吹〜り〜ぬれ
 暑〜ろ〜し〜を〜杖のす〜〜き〜ふう〜う〜ハ風の力あ〜り〜り〜

初秋地儀

松声知秋

初秋虫

初秋田

新秋

新秋風

新秋夕露

早秋

天よりみづらきそ秋を志免すらう草束の色のまつかりり
 をこのぬときりの松の杖くれハ風の音そとあらうこまらわれ
 柳樹のよむのたれろ杖くれハやうてなくちりたそ秋のま
 交るそ秋あつられと雪こハ杖を催すむしのまよりね
 紗ハらふ苗うろ心杖とねいたて杖の田のみや晴くまら
 けころのそはて目つまれとあしく風そ杖ふぬぬ
 嵐こみそハ秋ちへ山風のむよく杖ハ吹そ先りり
 風よりやまハ杖ハらうろく杖つるりのをりそまらうに
 涼むこてあゆむ夕ふをををふそまらき杖をそれ
 あつそそそそそそそそそ何とそそそそそそそ杖めまらう

残蟬

七夕

七夕待夕

織女

七夕橋

七夕手向

乞巧奠

中乞

のしまく初そめ蟬ふいそうれて杖ハ夕目のわらうりり
 けこちそそまそ深あぬ杖ハいらそやそそそ天の河そ
 女郎ふ今そあそやぬれまそそそ杖のそおめそ傳
 一平とらよの一日とたれりそ待よ長きハいつれそそれり
 柳そこ待りよまらぬらそやうやうふ申之のけ長そら
 うー川てくる人あらはそ杖りてまらとつらそそそ川の長
 たらうこ舟のやのらそそそそそそそそそそそそそそ
 小女子のたむけの行れほのそそそそそそそそそそそ
 たらそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
 うつせそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ

萩凡

萩

蘭

朝顔

垣朝顔

秋七草

草花交色

草花盛久

伊香保(行路小廣き野ありて秋草とて咲く)

常らてなまこころいへば萩とて下なるりの萩めとてうぢか

いろく小葉とハすれと萩のみの花のみきこハ萩ふとあれ

かこあらこころいへば萩ハ萩のうさきよおらとすれ

あやむうーはあまううにぬきさきー萩の香ふゆるなまこぢ

たらちよの萩のいさきさきーおとろををぬひーうぢぬの萩のふ

くこころぬきぬうとちとて萩萩の花とて垣をゆきうけてさく

萩の野のこころいへば萩とておひますーらぬ萩のせくハ

萩ハハハと一花お咲あせていろさぬくのまよのふうぢ

くれり萩のまぢふまより萩萩萩の花のぬきー子

やうらひてこころをぢかうーのなまハ尾をうさよ草一古ハ

武藏國芝とて野あり

まよとおのまのこころ萩萩のまねううらぬつこころぢ

こころいへば萩ううらぬ女萩花ハ萩のあらぬまよおひて

かまかきさぬううらぬおひぬぬうまのなまうーぢぬこころぢ

萩ハまき庭のいろくおまおきてけ萩ハ土のまよぬらーぢ

まくれハ萩を萩ゆふおけハまのこころとておけうらぬ

まくれハ山のまよーう萩のまぢか萩のまよとおくうら

異なりしひまのあせぢけやうふゆぢぬハ萩とおまぢかうら

おく平ハ萩おぢかうーまのまよハ萩にほくこえはるら萩

夕露

朝露

夕露

夕露と夜露

露不定所

野草露

樹陰露

行路露

秋風

秋風催雨

野秋風

廣野秋風

出

虫声幽

憐虫

虫声色々

前栽放虫

月前虫

深夜虫

秋の衣はききぬきぬきしるくはなれしるくはなれしるく

夕ぐれハ袖をたやりふぬぬありきぬぬありきぬぬありきぬぬ

日くらしの思ふありぬぬほえほえ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

下あはさるてあゆ先と指すく夕の思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

秋風ハ人の思ふをきく吹く吹く思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

何となくおのうわきて人のせいあ吹風より秋とぬぬぬ

淋しそ秋の思ふをきく思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

けろろハ人の思ふをきく思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

秋風ハ思ふをきく思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

をきくハ人の思ふをきく思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

鳴るわす思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

おあふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

さよふく一人思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

友を思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

庭を思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

秋の思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

むし思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

あふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

閨虫

野虫

山路虫

蚤

蟋蟀

馬追

鹿

夜聞鹿

月前鹿

きりくは袖ふくぬりて入ぬらうから入り裾布に木の葉の
 ざんねぬききこりしよよさのよらうあらぬきさくらよのうと
 わらまうよ松のひうりによる奥のまよこしきれるふはるふ
 おすこき赤の山ゆふたうく虫の知人ぬらうまねく
 杖ころろ志こしをこせきりくささるんはるじまの涼しく
 杖のよの福さきの友とほおは抱ふきちやくこほろきのみ
 ころろも福よちうく奥の中こよちうきりくささるぬのよ
 さきうい福う人目をたうりてさきぬぬひぬぬ妻やさうら
 さう人のさぬをさうりて知はらんゆらうてさきうのあ
 ほくーぬぬらうすぬに杖のよの月にさうりの目をありん

野鹿

山鹿

山家鹿

奈良小行きの時ふ

杖たきい月あそこまのくれは麻の音をさるうてゆか
 鹿返ふ出て着るんうらうこまを二んくやつぬは恨とむ
 野まあふいさう男うたぬや有りのを着ふおれて中麻のあくら
 いえんくさうをんーらき杖山のうつらふ麻はうれぬら
 山さこふ一虫宿りてけーらう杖はゆーきさををらうのみ
 奈良小行きの時ふ
 いえんくさうをんよらぬ春日の麻さく祢のうけにかくら
 さらわををたうりのちうらーさるこふ人の身ふむさきううれぬ
 淡けぬくちわ福をこささをいん杖をさるやねまのよらん
 のりんやさるぬふいさうてくらぬさうをさるよのうらうらふこおれん

鹿惑人意

老鹿

小鷹狩

月前遊獵

月

小春の狩取さのるよ日多きく月あつきよふらうらうらう
 はまの戸ふまうちうの人の心を八月とあをれとさしやうふらむ
 月のうさを照りくあつこふ新うらて月とおひをこらうらむ
 雪よ月よいよ照りにたり秋はすくき風さうらうらむ
 月まじりぬそらうらうらふはるを知らうけ申くうらの名さ
 時のまじりたうらうれらう月氣のさやらきまふあらうらむ
 夏よの涼しとらひり月氣をぬきおと秋やちうらむ
 月をそそあまをれは味きをあききよひうのそらむ
 庭中の松をえなれて月氣は今こそさうらまの内にあて
 夕ぐれのたうらうきよわきんてうらまていひつる月とあふらう

侍月

月漸昇

月の歌の中に

見月

船中見月

老後見月

獨對月

愛月

欲馴月

耻月

忍月

月増光

明月如盈

秋を衣うてきぬ人月をくきまきよみて今をうらうら
 さす新の明名のおくふ毎うらて大ねまよの月をさうらむ
 夕月ハるまうらうらうらうらうらうの味さへは照りうけ
 うらていよいよ照りて月氣はこらぬあそおをぬら
 りんねぬ月のよけのくせそらうら妹はうらうらうらうら
 やうらうらうら月のあつよはねうらうらうらうらうらうら
 衣をふまうらあをるを面をくはうらうらうらうらうら
 たまやせんあやなやむいよいよいよ月とあまをさうらうら
 夕まやあ風れんふ月のる林はうらうらうらうらうらうら
 さえはる月の光をさきよていひぬねあきさうらうらうらうら

上弦月 参として人のうろせハ夕月ハよのゆく長く思ほゆるら舞
 弓張月 時々たるふ二日月と名ひしとらさるるうとたやぬふり
 十五夜 今なるこそ杖の伝中への月の起てうらふよりくふと
 八月十五日曇りられハ去年ハ夜中より晴たるこそ思ふく聞ふふとて
 下弦月 よいふ満りぬいよふれくうくハ惜きその月の卯
 九月十三夜よふんく

月下奥 今のおハ存物のそぬをきけ月ハ影はのあゝのまわけのそ
 にはほり月にされて杖のよを一人のまみたりらきうぬ
 たりろく月ふむひてほくたハおそやうふぬふ酔うにたう

風前月 松風ハ月のあるよハ何ぢうん喰くもううらうのさやけき
 雲間月 きらううらうらうく月のさふらうらうししの杖とらさ
 深夜月 くらぬらうらうらうらうまされ茶あらうらうらうの月影
 文ぬらうらう風がうらう月影とまをばうて秘ぬハ秘けん
 月漸傾 きぬくの神ハ月の影ともくまらうらうれまらうま
 残月 ちあうらうふあうねのさうらうて西のよふ月白とゆく
 山月 知人とたりの月さくおさひて海らのけハ世は似さうらう
 野月 中やうふ月をさうらうたむさう野はらうらう入ハ山ハかそれと
 旅泊月 あらあふうらうの月をさうらう母ハ山ふ月明しうらうらうせぬ
 浦月 おれうらうらうやうらうほふ月影のぬらうの浦とさうらうらう

山家月

深山月

竹窓月

月前鳥

老人友月

依月客棗

月前情

月添秋情

月前述懷

おのゝ庭のなまゝて月影のみのきつらちる。杖のしづこ

たふらちるちりさきうめり笑のあやうさうふ思月とて

月てれい雲の空とぬみたりいさか村竹のけのうらりて

さやうふひもとやあふ棗の影たやの暮る月にちりあう

鳥さくあつき月夜のほぬものをさめりこちのきんせの中

月とそいねさきくの友ちれやをていりつふひまゝいりて

さうとねと月ふ人のねとつれてやこい淋き杖のよさうね

つくと月ふぬいてさる。悲そ杖の影のぬりちるらん

花をそとるこつ。春の諸人を杖の月よそねよあうらん

たのうらうせの影のやをそらん。ほれいりくる。悲平の月影

對月思世

月雪花の三百首を三日よみたり。中の月の歌とて

世の中ハおのたらぬ程とよきと行これ月けのうけをさるらん

わきこもろ海ふらりの月影を何やちりきふうてこもろあね

みけやこいそめのまふふかりに袖たぬりぬ月そらうとれ

あらんやそあやうら日の平のこけけとぬる月のひうら

月こつ。悲をさるせすまはう。ねを換山のおうらりして

たのうらう。氣ほつき。悲りもさるし。月まふらん。門たひりて

り。替たぎのこよ。かやふたれていんぬ。月の影うね

あらはの懐ちりのうらぬ。月あられ。ほひさうらう

残山のこよのうらに。移ね。せうら。さうらぬ。月をさるらん

厚うみに使されてハ旅ねあめめくせん時あうら

聞雁

ほのくときけハ怒りき厚うら杖の氣ハ持ほるる雁

老後聞雁

をてまこそまきけハをば人うらになれとそちこそせね

海辺雁

あゆちうらこきうらハ時ハ振田一方ハうら厚うら

山東京傳う古き事とよひたせらる時ふ妹とよう姫瓜うらう子

ねとめてあうらを見てたれひようつる事ハひやりられハよろこひて

草袴ハたぬのさきぬらうらうらこねとらひたせらるるうら

何ちうらぬうらハくさハ草袴のうらちのゆくふえはうら

伊香保の出湯あうらとて出とらあうら

ねちうらけきあのまうらふえはせハふら山のうねうらうら

田家持衣

かゆふめく残うらうらよはえまきるる虫りのきめハハ

鹿聲交持衣

杖ハらふさひうらうら麻のよハゆらよきぬとまうら

栽菊

下せく花の白菊植とてそのころよらまきとらうら

菊花色々

うらうらえさぬさぬくに咲あせて菊のふそ人まうせられ

園菊

杖うわめ家を作りてよの人の人をまきくふはくす杖うら

野亭菊花

ちくさけく杖のやまうらをうらうらうら菊ハハ何うら

紅葉

花うらけみまにうらうら春杖とくうらうらの空をまきの世ハ

春ハ花杖ハみまにうらうら杖ハ何ハまうらうら

杖のまふ山の木のまきうらうら申くまをうらうら

待紅葉

深あぬみまの杖のあうらうらたきまうらうら

夕紅葉

夕紅葉の時のあけぬに夕日さすてさくさく

紅葉輝夕陽

紅葉輝夕陽 時より赤より紅なる葉をまじりて

夜紅葉

夜の紅葉は月をまじりて白くもみゆる

紅葉狩

紅葉狩にゆくは秋の味を知るに

行路紅葉

行路紅葉は旅の心を染めてゆく

挿紅葉

挿紅葉は庭の秋を長くもたす

聞鹿声見紅葉

聞鹿声見紅葉 秋の深き山に

山紅葉

山紅葉は空の色をまじりて

楓の葉をまじりて赤くもみゆる

深山紅葉

深山紅葉は静けさをかきこむ

山路紅葉

山路紅葉は旅の足音をたたく

木曾山少々

木曾山少々 秋の山に

紅葉の葉をまじりて赤くもみゆる

大木もや紅葉の山に

上野國ふくくけの紅葉を

上野國ふくくけの紅葉を

林紅葉

林紅葉は木々の色をまじりて

谷紅葉

谷紅葉は谷間の秋を染めて

こころを染めてゆく

河紅葉

ももちそのちろしくひの谷川ハ綿をさらすすおちりり

水辺紅葉

ももちそのちろしくひの谷川ハ綿をさらすすおちりり

高野山の古岳法師の歌をよまぬりりるふ函居紅葉

人のちきと度よみおに琴ひきとあらうの笛ふちる紅葉

名所紅葉

むらうのうらなひ言尾ふきとこれハ紅葉の指目こそ及たぬ

難波十二景の中お無賢紅葉

あうねのちとてハはのちつくらへ仲ふみ葉のほこちとて

都ふりりりるころ東福寺あて

うらちを風吹あうてられそのちふうのうらそのお紅葉

凡前紅葉

たきハ且ちうらへ杖のみきをハ山ハ風の吹をすころ葉

楓

時をうらうらう若くて杖ハ紅葉のうらふお

晩秋虫

たて織りつりさせてよこちうきん人の夜さむや借して

暮秋虫

はのをれておやわらうきりくも木の根ほくをむかふ

名をうらうを限りの杖つちひちうとてとてとて

暮秋月

そらうし月の面お杖うらて冬のけりいとぬりり

暮秋紅葉

杖のりたのむけふおぬさハ紅葉のうき杖やうら

秋雲

とんすれハいせきやふくられて吹さうぬる杖のゆ風

秋霜

夕暮れおのさおとちうはそ杖のさのたきとちうち

難波十二景の中兼川秋釣

川はふんちうくちわちうと系うら杖の目そころあき

榛名よて猿の鳴るをききて

秋鳥

草花 猿の木の秋の夕ぐれのあなれをいへりしうらむちの
まのよと春はちうくうし百あきちうし福うひて秋あきなる
もまちたのちうくとまてはうきむつくるもむいづつ
まてて秋ゆく風よむらうくと山うらほむところとあうよむ
春ゆくききをとてあうあきまはとちふらうふ秋の山さ
まてて山田の店のをたきほりきあよにまをききて秋
いづるよとまをうらにまひてはもちたうらうとまよの
まよのよやうれい旅の夜のをうらさハ秋のそらすりにして
あなれちの秋のそらの花うけしうと秋ふちちうきよのち

山家秋鳥

田家秋鳥

秋狩人

秋祝

このこある秋のそらに秋のそらうらうらわせのよひまわりして

冬之部

初冬天

初冬月いつらんをらんは内冬一てりふ定まぬ冬の時より

初冬時雨

秋よりぬあつてくちうしえさえてあはたぐんぬ時雨のね

時雨

わらふ人にさよあられとまこころの時雨ぬえをいひてかた

ゆの女うときあつていさぬを教なり時雨ふわいてほ

けつらたまふことまふて枝の葉もあつてひうてふ遊時雨のね

ほくぬまふてまのいづらふぬちて風のまふもきれりらむ

和田の山よて

月ひ晴てぬぬほつる和田の山林さひぬらう時雨をほつる

時雨陰晴

たふしうてぬらひに曇る時雨ぬぬぬれさるんんんんん

時雨随風

今よりしきやうてて掛てる風よ又も時雨きぬぬれ

夜時雨

風よりぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

里時雨

まをる時雨りらうつまてふ里のまをるときりのりて

遠時雨

まをるの時雨の時雨の時雨の時雨の時雨の時雨の時雨の時雨

赤むりたうぬおらうやまのりんきふぬり山本のさう

行路時雨

はちうさんさうてはちうぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

名所時雨

名たらふおらう風やぬぬらうなす路のるまをときりて

落葉

境なる並樹の小橋たちまして河風さむく吹くぬぬぬぬぬ

蜘蛛苗落葉

めつらうちらぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

霜

まをらうぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

暁霜

うつこたみまをこねる氷の所々ハ野の色そをふまう人れ
氷をさむと曉うく並み又おりの意ハうハくうふら
有明の月氣白くたきとくすまのうつこハおそーら
大くのたにぬりてこのそらの日影ふ白くさゆる影
きぬくふ別ねてぬるおまハはあつてぬる
うらうらとらハ日影も思まらんおまうく並み
意ゆりしたりぬるぬるまねゆゆる氷ほきまの人の足
介ぬこれハままのまねとぬふりうらぬふゆー庭の白
ぬうて氷ぬる上ふおくまそハまふぬてそあゆこく
おまこままのまねをわけくれハお祝よりそおふなりゆ

曙霜

朝霜

深夜霜

庭霜

行路霜

野径霜

古寺霜

氷

薄氷

厚氷

氷遍

硯氷

河原のままのうらふ山よのあつきたまわらん
やうあそらハままたまあつて流れやらず氷もむれハ
ぬるのうきわいーたのうらーおまぬ氷のまのうら
わらそくの冬の持ひのあつ氷ぬるぬておてるまら
わらそくはまのそんまらひかて氷の上ふとちらぬふり
くまらてはぬのぬをうらすまふりつむすまら梅の
吹よすお風のこのまのいろくを村まふく池のうら
ぬあつてはぬのぬをうらすまふりつむすまら梅の
ぬれてはぬのぬをうらすまふりつむすまら梅の
ぬの書りてうらぬ葉をうくこれハ硯のぬの氷まら

軒氷

庭氷

池氷

沼氷

浦氷

山川氷

氷結落葉

諏訪少

寒草

雪つりぬる氷をのつらりりまてくるとてハちうくさうまきふらん

やうをわね一五ふあうりの風さえて氷とあはれををくらうれ

わらんあやふくはまきくほよと池の水を通ふゆふ

あまのくうふまきくふまきまありこふひこぬよやわうくらう

白雪のつりれにえらよ浦はぬぬふハまらうく氷うくらう

山河の水のちうつようう一枯葉さくふうまて流さぬ

よちうしなをこのまをさうみの流せぬあはれ氷とちう

りらうう流渚の湖水さむむんぬうううくゆまてこまわし

まれさう一たうらう岸のまきまら今ハのころぬまのトハ

ちうはくれり岸にうけつ今うみ申る草んこえり

野寒草

寒樹

霞

庭霞

屋上霞

篠霞

水鳥

ちちうくさう草よりおまらうをくられり冬の世辺うね

うまゆみのハ松枝さううめて風のやううそまハすくおま

相のそのぬらまきぬあををうれてこたをうぬちうぬ栞栞ハ

わらんうらうらうとほつささくハ袖ぬぬれぬぬ玉まぬ

さこのそのさちくぬぬまをまぬてぬあはれぬぬういこねられぬ

庭にちてまきぬおををらうくはうくまぬぬ玉まぬのぬ

あう一たう音のぬらまぬらぬとまぬハおふうまうまきぬ

さこのそのまぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

立田川もちちうくさうぬまぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

たなきそむぬらうの時やぬらうその毛衣のおをぬぬぬぬぬぬぬぬ

水鳥多

池水鳥

霜夜水鳥

川千鳥

細代雪

雪

雲催雪

雨成雪

雪のふはたのまらるるをのさうつらつ垂ひてむれあそぶらん
 こぼりゆくあめすうつらめをうらみきりより後、池のをこい
 んふさハ氷うのなふくまぬりてまのふさぬたさふやうらん
 あらうや川ちよのちよこま冬うれてくまぬき月ふちうちうこ
 月影のあらまねろよあら川の岩はふるまぶむせよなるよ
 あらあおいさうよはぬよふまぬまのやよハをを争よ
 おの色のうくれさうてけくふはさぬまにぬりちうさか
 雪ふれハ後ハこけぬらんさうまぬひいらや清ぬめうらん
 西うらうきさうゆあふくまててまふちうらん風ハこころは
 よさうきたるまふをくくつらぬるあうさうさうううてハ

待雪

初雪

雪遊

雪中行客

雪意及酒

朝雪

山館朝雪

岡雪

浦雪

こそれうらまのうらまハまらるとまふやなるためりまが
 いさうのまのまうれハ時ぬま目さふ思あうらひたさすこ
 わらそハなきまふらむまやらふいさふ存まあす門掛いで
 おあつらまうちうらひさうらぬ独の白さハねまうらゆく
 けちふほあうまてこまよらうつらふつらまの白ま
 今ぬらうわらのたきそくまよ日ハ枯つるまやうらん
 つらうらたぬらものまをうらまてあらまたりまのぬア出
 のうらまにうまやうして山まのぬのまハ一束ねてみつ
 らぬまのままをまをまらぬれうらまのまふ園ハまられと
 せまのままをまをまらぬれうらまのまふ園ハまられと

河添雪

竹雪

雪折

行路雪

雪中路

雪中雪

木曾路よ

雪中眺望

雪中月

きつらりくわねる雪川をみせめてくぬまてうつめれゆるり

きつめる雪のき行をくられとすう拂りんをねたそすれ

山ねはくきようらそきえぬらう思ひたうぬ枝の雪をれ

せはりのるえんあきと意あふ人と伝えん雪守の雪をりぬ

きほひつゝきつんえいさやきこるふらそく一脱せうの申え

きよれハ畑といえんかき多てあうこハるのいこそあき

はつらうらめ白きうえくうてうこてや雪のきたこふせぬ

あきふの花とみえうたこつれときよのくきそよふ仙りらる

きよらて雪るお日の色ようそいこさやうふうりなれぬる

たわらくきめううみをゆく月の新ぬぬふきハうりはく

雪中氷

雪中鳥

雪中黙

月雪花の三百首を三日ふゆせうらる雪の歌と

よくうしきの足踏今おえれハ雨くそ氷りともちとる

あきすハサの鳥うたてやうのきよおわくら然出てあきうら

きつめるあうのるをぬゆけハいぬのこちうてあきんえし

風きのきよけけけのあきすこけてハはくそ初雪のそら

時ようこそあれあられとやうのてあききハりあそいあき

山風の吹くゆきこきこきこきこきこきこきこきこきこきこき

よひの雪のあらハきよふちうぬあきあきあきあきあきあき

たき出てるの雪あきれハいきこきこきこきこきこきこきこき

あらまにあらハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

あらまにあらハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

うち掛ひくつ申くく身さへつてきふちうきよ
 いづれらむそのたさうのうけふねむねのあつききのかさる
 川さのまほのうさううさうてはくふあふうむゆき
 きいひちほりうきいよるねとつてきさむ果のうた
 むつみたる人のきの日うひさむのとなひうけさ
 八日申く後の白雪をほえてはるまきくちうき
 時のちふさふさう山やハ申きけそ冬のちうひあり
 あをきくきさうふあへ午るやきうをさうたひあす
 ろるのトサすころんぬるよふとよりきんぬうむらむ
 白雪のきうくきよ月氣いよまそゆきゆきあは

峯炭竈

雪中炭竈

衾

山家衾

向爐火

こわくせいとさうくそ烟うつきのらつこふ人のすむらむ
 風あれてきのむらうくもさわく時ぬらきのをさる
 一平のおのあをたれくれくの冬暖ふのきやそあり
 きふそそたらぬ夜ハ清えられちうた女ハううう
 けろつのおをさうられて炭竈のたうみの燭やうき
 きうれいさうさう山ううううやうらんきよのさう
 ききとあハ一人そたれよあううぬ人を寝ふてはす
 あううぬまきよておてんきさうよハたさのこをわ
 山衾ハさき火のさふさうのうきさてぬよハあふ
 祓られぬきさふ冬の時りうてむう火をけとまそ
 ぬらり

埋火

相火挿すひつちをうて焼くよふさ〜んわひたてあつたぬら
さ〜んやのなをさなれた埋火のなを〜ん炭さくつ〜んわひ〜き
た〜ん〜んききけあふ埋火のききえを〜ん〜んわひ〜ん
待るよきえてわ〜ん〜ん焼〜ん大あやふ〜んを〜ん〜ん
を〜ん〜んよりのきき〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
たゆ〜ん〜んのなをきき〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
村長や笛ハ〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
あ〜ん〜ん小をら〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
花〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
い〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

雪中梅

神樂

早梅

曉更燼火

閨埋火

埋火老友

待春

歳暮

驚歳暮

惜歳暮

世の世〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

世の世〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

歳暮依人

老人歳暮

歳暮言志

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

市歳暮

家々歳暮

旅歳暮

冬眺望

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

冬函栖
朝寒風

冬嵐

冬曙

深夜苦寒

冬鳥

冬木

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて

あくれの東ふくくむとする年の暮小雅はみて



字
孫

孫

不
亦
自

一
孫



11.1.18

